令和２年度ＳＤＧｓ（循環型社会の構築）実現推進事業

実施報告書

目次

１　事業の目的　……１
２　実施内容　……１
３　ワークショップ結果の概要……２
４　総括　……３
５　アンケート結果の概要　……３

１　事業の目的

ＳＤＧｓにおいて「２０３０年までに，廃棄物の発生防止，削減，再生利用及び再利用により，廃棄物の発生を大幅に削減する。」ことが求められている。

産業廃棄物の３Ｒ（排出抑制，再利用及び再生利用）については，これまで排出事業者及び処理業者及びリサイクル業者（以下「排出事業者等」という。）によりそれぞれ取り組まれてきたが，更なる３Ｒを推進するためには，排出事業者等が互いの利害を認識し，利害の調整や新たなリサイクル技術の開発などに，連携して取り組む必要がある。

そこで，排出事業者等による連携・協働の優良事例を紹介するとともに，連携の可能性等について，排出事業者と処理業者及びリサイクル業者が意見交換を行うセミナーを実施した。

２　実施内容

セミナー名称	循環型地域社会の発展・廃プラスチック問題の解決に向けて ～排出事業者と処理業者の相互理解・連携のためのワークショップ～
実施形態	Web ミーティングツール「Zoom」を用いた遠隔実施
開催日時	令和３年２月４日（木）１３：００～１７：３０
当日参加者	排出事業者：申込総数１９名，当日参加１５名 処理業者：申込総数２０名，当日参加１７名
プログラム	**１　開催挨拶**　京都市環境政策局循環型社会推進部廃棄物指導課　廃棄物指導課長 **２　基調講演**　１３：１０～１３：４０ 「廃プラ問題における廃棄物処理法の課題について考える」 講師：BUN 環境課題研修事務所　主宰　長岡文明 氏 **３　排出事業者と処理業者の連携事例紹介**　１３：４０～１４：２０ ⑴　事例① 「産業廃棄物からのマテリアルリサイクル事例―資源循環型製品の開発に向けて―」 講師：株式会社パンテック　サーキュラー・エコノミー推進部　大野賢 氏 ⑵　事例② 「ENEOS の考える廃プラスチックの油化リサイクル」 講師：ENEOS ホールディングス株式会社　未来事業推進部 事業推進２グループ　小倉俊 氏 **４　ワークショップ**　１４：４０～１６：５０ 排出事業者及び産業廃棄物処理業者等が各々の立場から，自社が抱える廃プラスチック類の処理に係る課題等を共有し，意見交換を実施。課題解決の糸口を見出すとともに，廃プラスチック問題の解決に向けた連携・協働の在り方について考えることを目的としたワークショップを実施。 ６グループに分かれて実施し，最後に各グループにおいて出た意見の共有を行った。

	5　総括　アミタ株式会社　取締役　田部井進一 氏 **6　情報交換会**（任意参加）　１７：００～１７：３０ セミナー終了後，Zoom 上で参加者同士の情報交換を実施（ランダムな組合せで，２回実施）。

３　ワークショップ結果の概要

	課題	今後の取組案
１班	・　RPF の原料不足，分別の不徹底。 ・　需要と供給の不均衡。 ・　容リのマテリアルリサイクルはコストが高い（サーマルは認められていない。）。 ・　脱炭素を進めたい排出事業者と，今までどおり焼却を進めたい処理業者の意識のずれ。	・　相積みやルート回収をしやすくするための特例などの可能性検討。 ・　容リ法対象品以外の一廃のプラ，独自ルートで委託する場合の許認可関係の支援。 ・　ファイリングされている文書のような，プラスチックと紙の不分離一体のものについて，産廃や一廃の許可の認定・乗り入れができるような方法。 ・　今回のワークショップのような排出事業者と処理業者の情報交換の場を継続的に設定する（産廃×一廃の意見交換会の場などが無いのであると良い。排出事業者（京都工業会の環境管理研究会）などとの情報交換の場もあると良い。）。
２班	・　運搬コストによって全体の処理コストが上がっている。 ・　マテリアルリサイクルを実現する手段の不足。	・　処理業者間での連携促進。 ・　産廃と一廃の相積み。 ・　処理業者側の情報公開と，排出事業者側が情報を取りに行くこと。 ・　処理業者が知識を身につけ，新しいリサイクル方法などを検討できるようになること。
３班	・　（排出事業者視点）産廃処理を安さでしか選んでいない。リサイクルルートや処分側の情報が少ない。地域ごとの正確で最新な情報が足りていない。 ○　購買との連携：安価な材料となると梱包に要望を言えない。 ○　経営層の理解：トータル的なコストを把握してもらう。材料と処分費のバランスをトータルで考えて理解してもらう。マーケティングにもつなげたい。 ○　品質の維持：販売価格への転嫁が難しい。 ・　（処理業者視点）分別徹底してもらえればコストを下げることはできるが，なかなか分別が進まない。 ・　新しい処理施設の建設費用が捻出できない。	・　排出事業者と処理業者とのマッチングの促進（以下の課題の解決。）。 ○　最初は価格よりは受入れできるかどうかからスタートさせる場所があるといいと思う。 ○　本社から場所が離れている工場がある地域の情報を集めることが難しい。 ○　安いということで切り替えると処理業者間で揉めることがあり切替えに気を使ってしまうことがある。 ○　現地確認や信用調査も必要であるが時間がかかる。
４班	・　（排出事業者視点）有価物化や社内循環の仕組み構築がなかなか進まない。 ・　（処理業者視点）施設が小さいので，プラ分別が追い付いてない。細分化をして処分費を下げたい。	・　循環に課題があるプラの特定。 ・　排出事業者への分別教育。 ・　廃棄物の分別の専門家の手を借りることに，行政からの援助があるとよい。 ・　処理業者が排出事業者の工場に行って，現状を知ることが大切。

５班	・　（排出事業者視点）分別徹底は行っているが，分別の品目をどこまで行えばよいか知りたい。分別したことで小ロットになってしまい回収が難しくなってしまった。ロットをまとめて回収できる仕組みがあったらよい。 ・　（処理業者視点）分別の指導ができるような社員教育。	・　京都工業会の環境管理研究会などで，情報交換の場もあると良い。 ・　複数の排出事業者をまとめて回収ルートを進めて行くことができればよい。 ・　処理業者からの分別の指導，運送会社によるルート回収の適正な構築など進めていきたい。 ・　原料メーカーや一般貨物運送業者も含めることでサーキュラーエコノミーの観点も加えていけばよいのではないか。
６班	・　企業，行政との情報交換の機会が少ない。既存取引先等，情報入手経路が限られているため，取組が発展せず，また，新たなアイデアも生まれにくい。 ・　循環させたい廃プラに混合樹脂があるが，その樹脂の物性上，技術的にリサイクルが困難である。 ・　サーマルリサイクルではあるが，塩化物やカーボンファイバーといった，現在では難処理物として扱われているものをリサイクルできる可能性がある。しかし，排出先や行政との連携が取れていない。	・　個別の案件は発生量の規模が小さいので，再資源化施設のサイズ感のギャップがある。自社だけでは解消できないので，例えば京都府の単位で考えて物，質のデータを整える，情報を発信し合うなどを行う。 ・　マテリアルリサイクルに関する情報へのアクセス容易化～既存取引先との間での情報に限られているのでマテリアルリサイクル事例の情報の共有ができればスムーズに推進していけるのではないか。

４　総括

・　排出事業者と処理業者の間での情報交換，及び処理業者間の連携の重要性について認識が共有された。また，排出事業者と処理業者が情報交換する場も貴重であるという意見が多く見られた。

・　分別に関する双方の立場からの意見が交換された。今後分別が進み，処理コストの削減やリサイクル率の向上が期待される。

・　低コスト化と脱プラ・脱炭素を推進したい排出事業者と，現事業の延長線上の RPF 事業の拡大を進めたい処理業者という，社会トレンドに対する意識の差異が明らかになった。

５　アンケート結果の概要

・　有効回答数は３２名中２５名（排出事業者１３名，処理業者１２名）であり，回答率は７８%であった。

・　全体の満足度については高かった（２５名中２４名が「有意義であった」又は「やや有意義であった」と回答した。）。

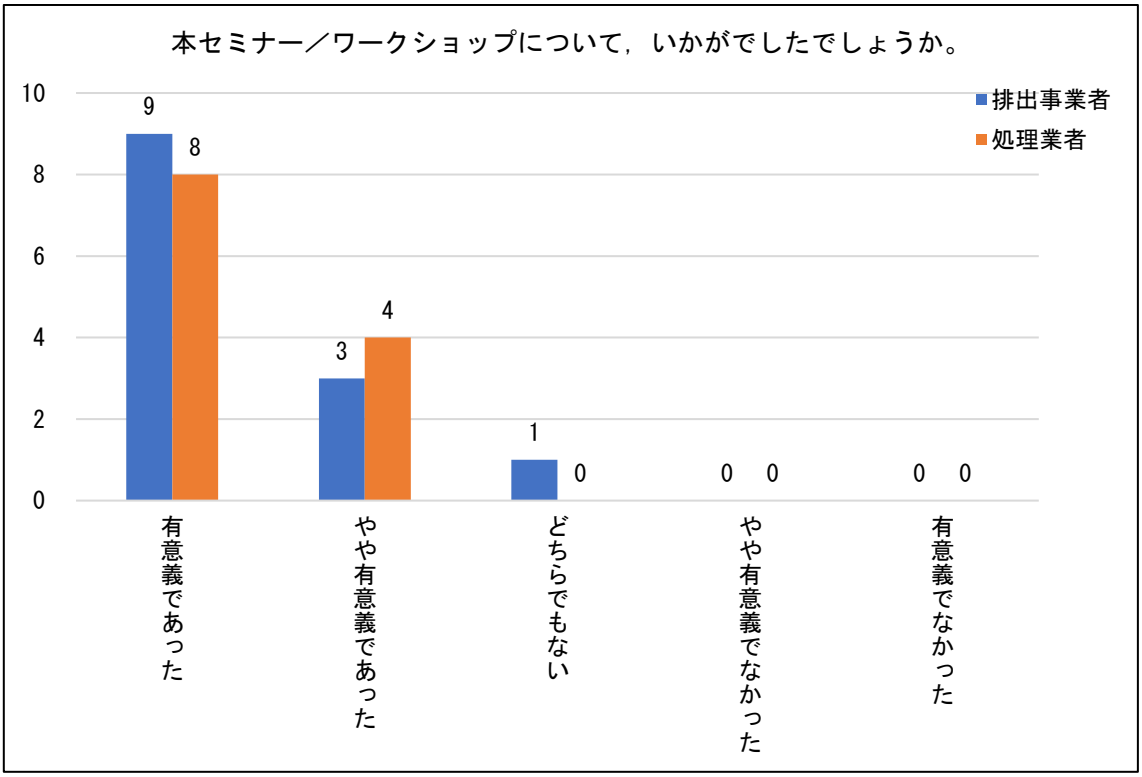
・　最も満足度の高いパートは，「排出事業者と処理業者の連携事例紹介の事例②」であった（２５名中２２名が「非常に満足」又は「満足」と回答した。）。

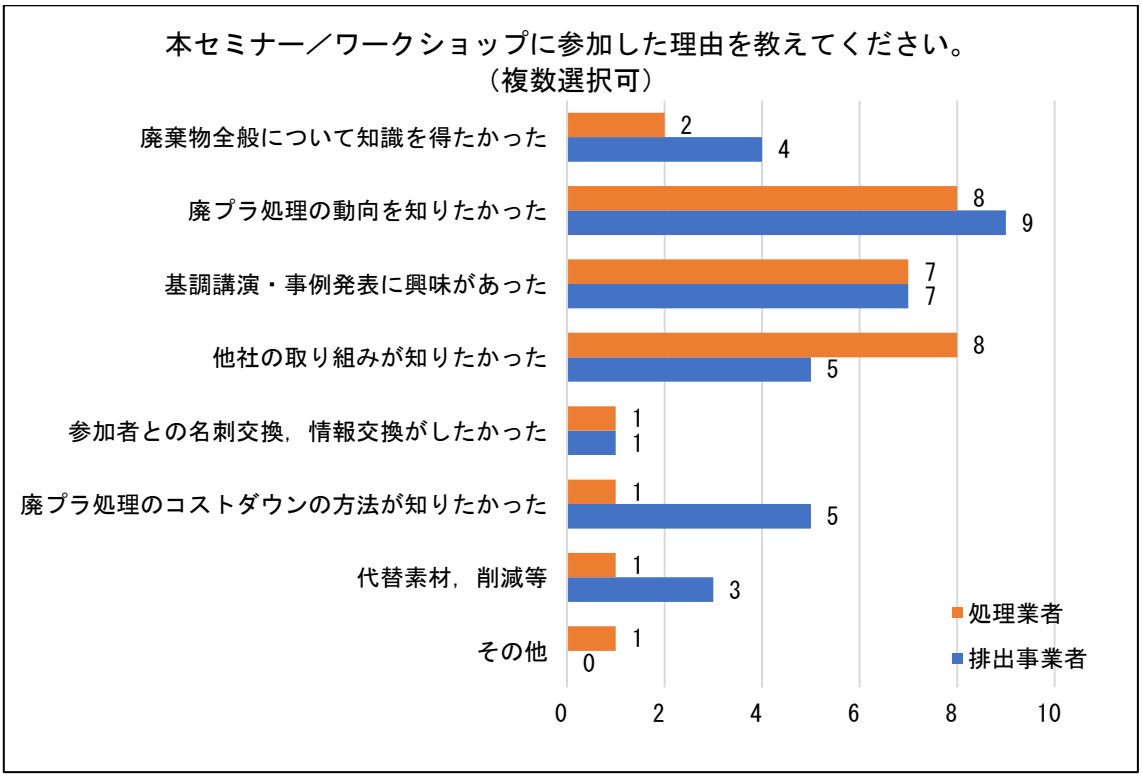
・　参加の動機としては「廃プラ処理の動向を知りたかった」と回答した方が１７名で最も多かった。

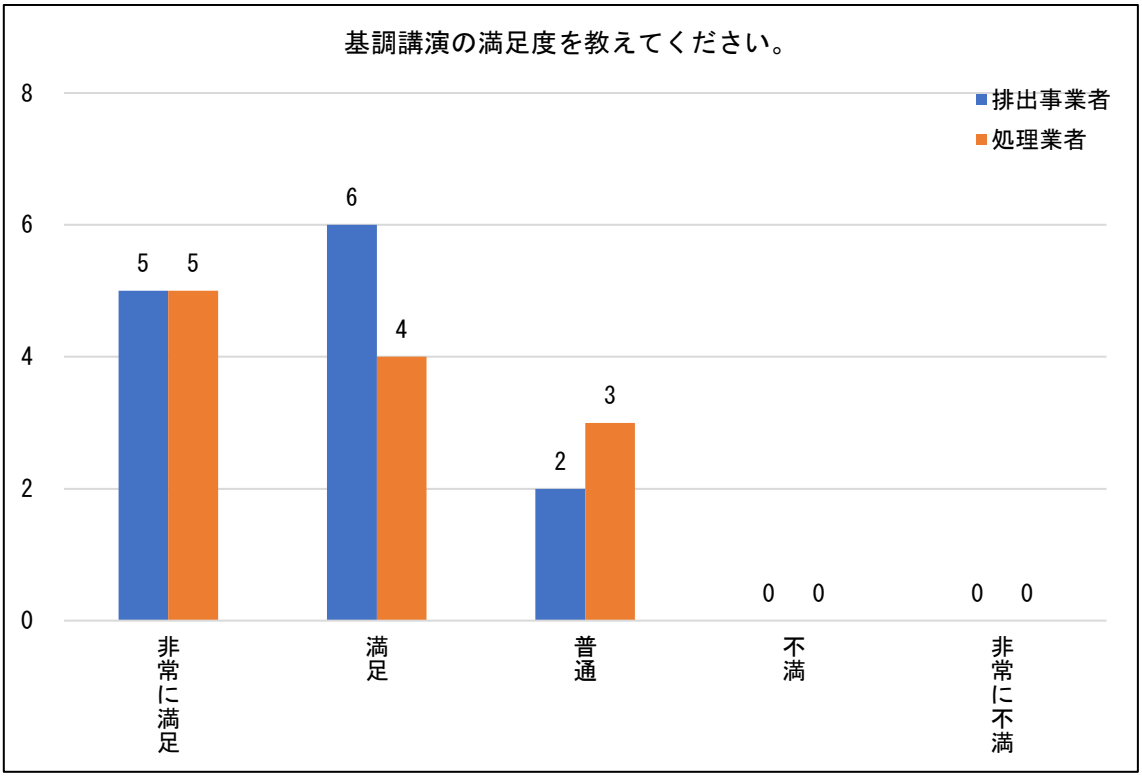
・　２５名中１２名が「業務に活かせる気付きがあり今後具体的に取り組んでいく予定」又は「業務に活かせる気付きがあった」と回答した。

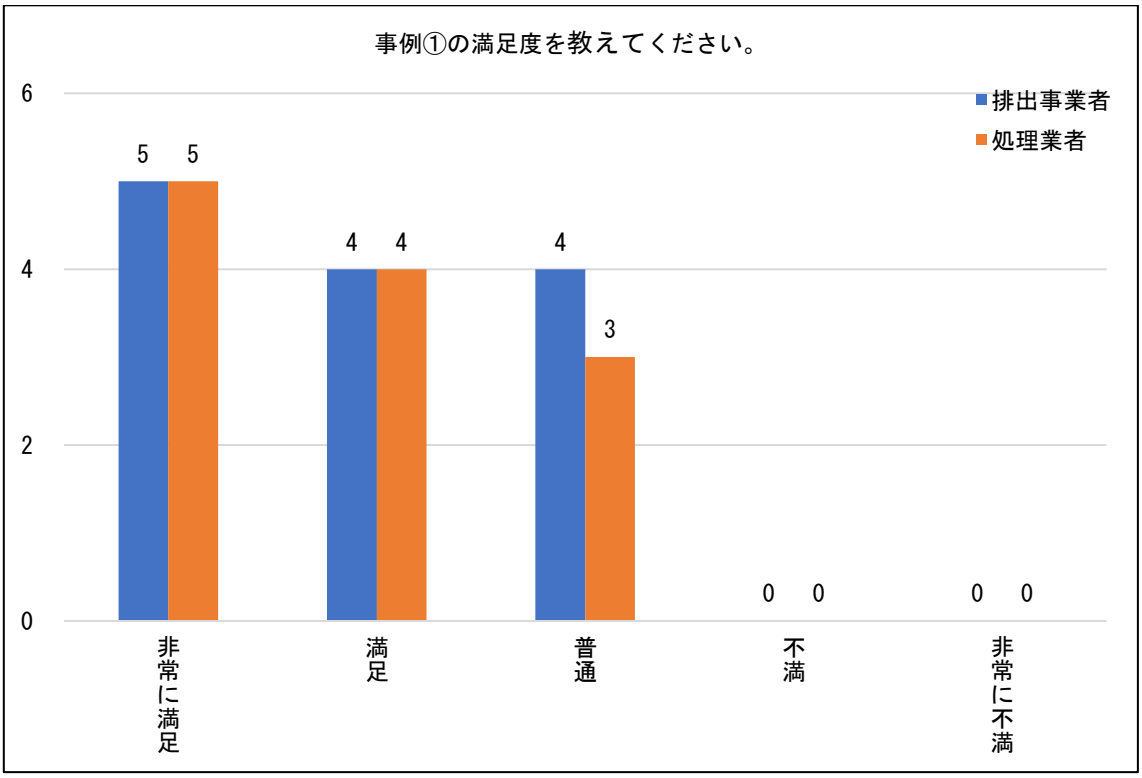
・　オンライン参加については，「やや参加しにくかった」が２名で，残りの２３名は「参加しやすかった」又は「やや参加しやすかった」と回答した。

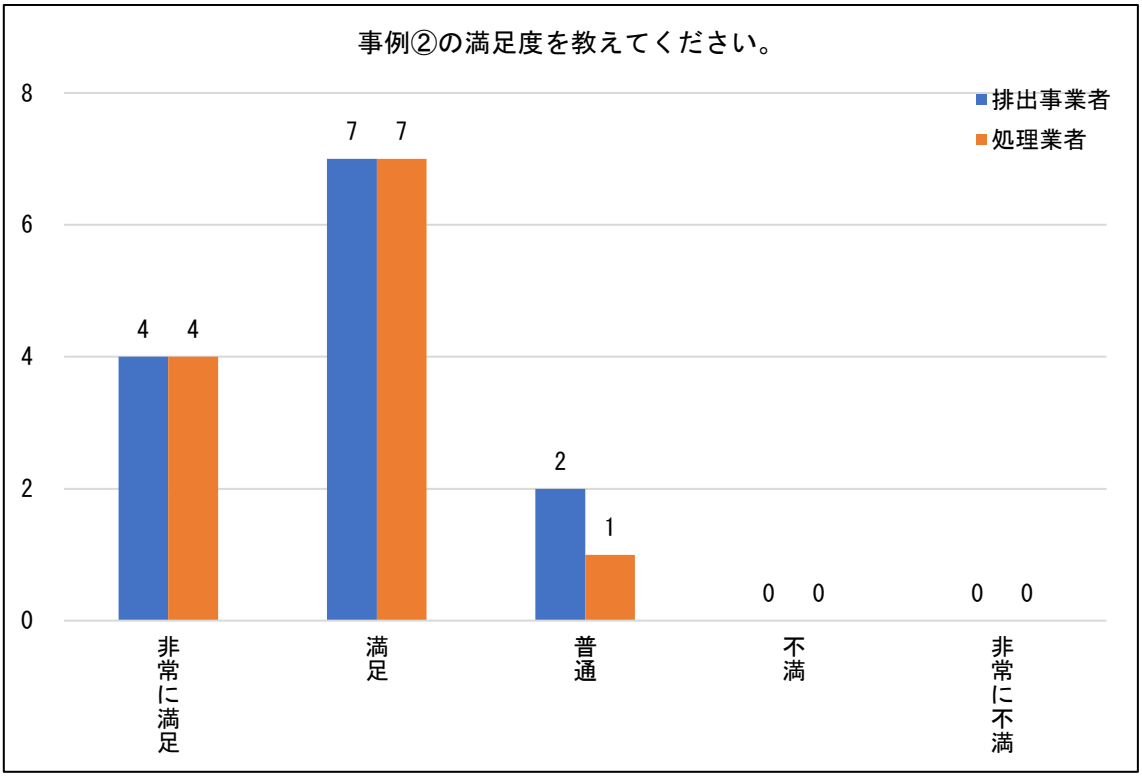
次ページ以降に，アンケート集計結果のグラフを示す。

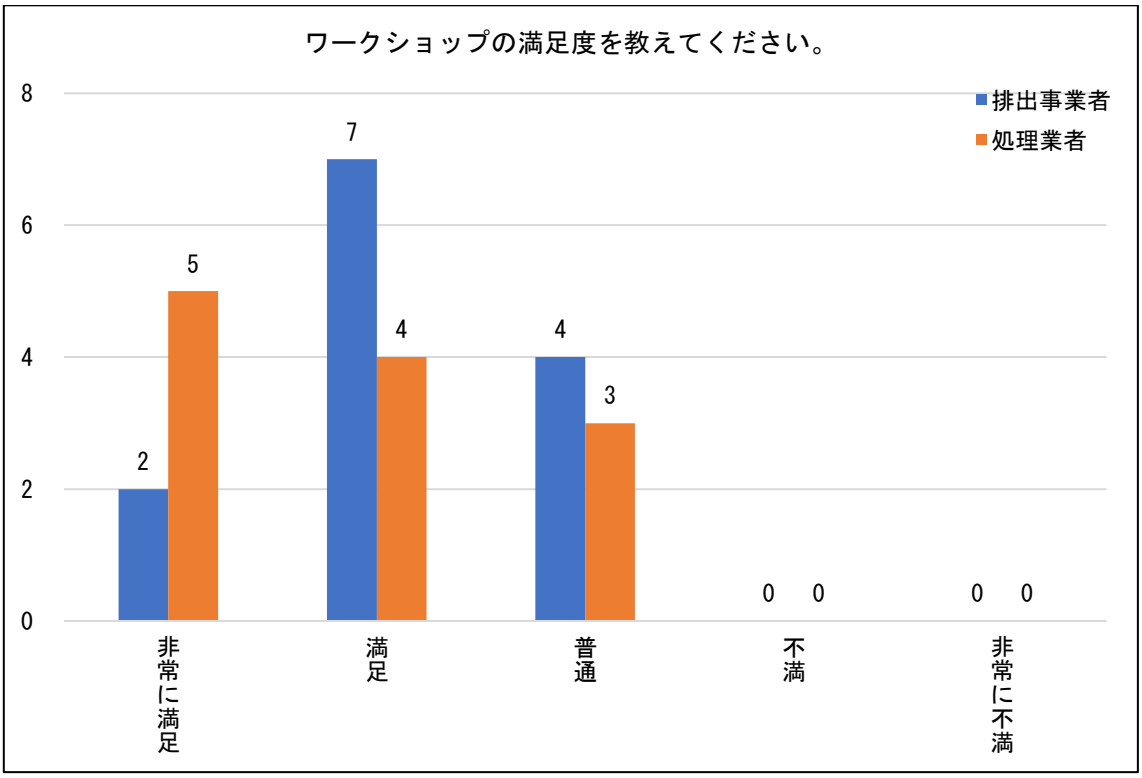

本セミナー／ワークショップについて，いかがでしたでしょうか。
排出事業者
処理業者
10
8
6
4
2
0
9
8
3
4
1
0
0
0
0
0
有意義であった
やや有意義であった
どちらでもない
やや有意義でなかった
有意義でなかった

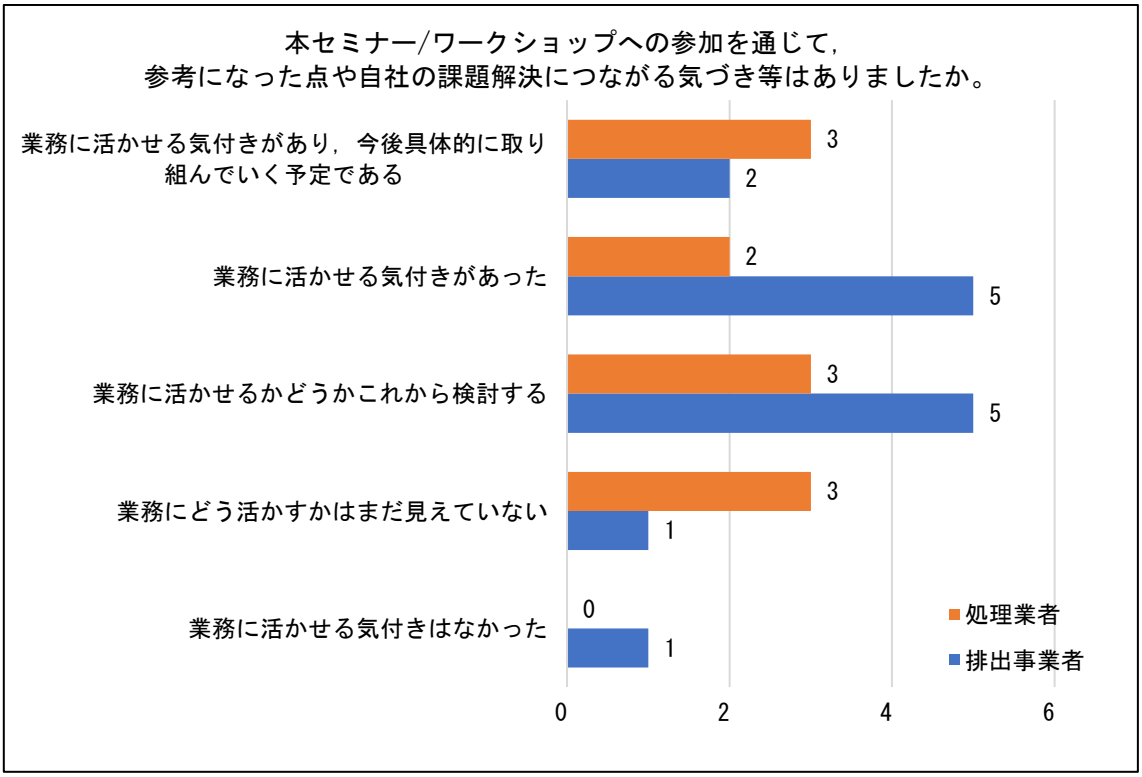

本セミナー／ワークショップに参加した理由を教えてください。
（複数選択可）
廃棄物全般について知識を得たかった
廃プラ処理の動向を知りたかった
基調講演・事例発表に興味があった
他社の取り組みが知りたかった
参加者との名刺交換，情報交換がしたかった
廃プラ処理のコストダウンの方法が知りたかった
代替素材，削減等
その他
2
4
8
9
7
7
8
5
1
1
1
5
1
3
1
0
処理業者
排出事業者
0
2
4
6
8
10

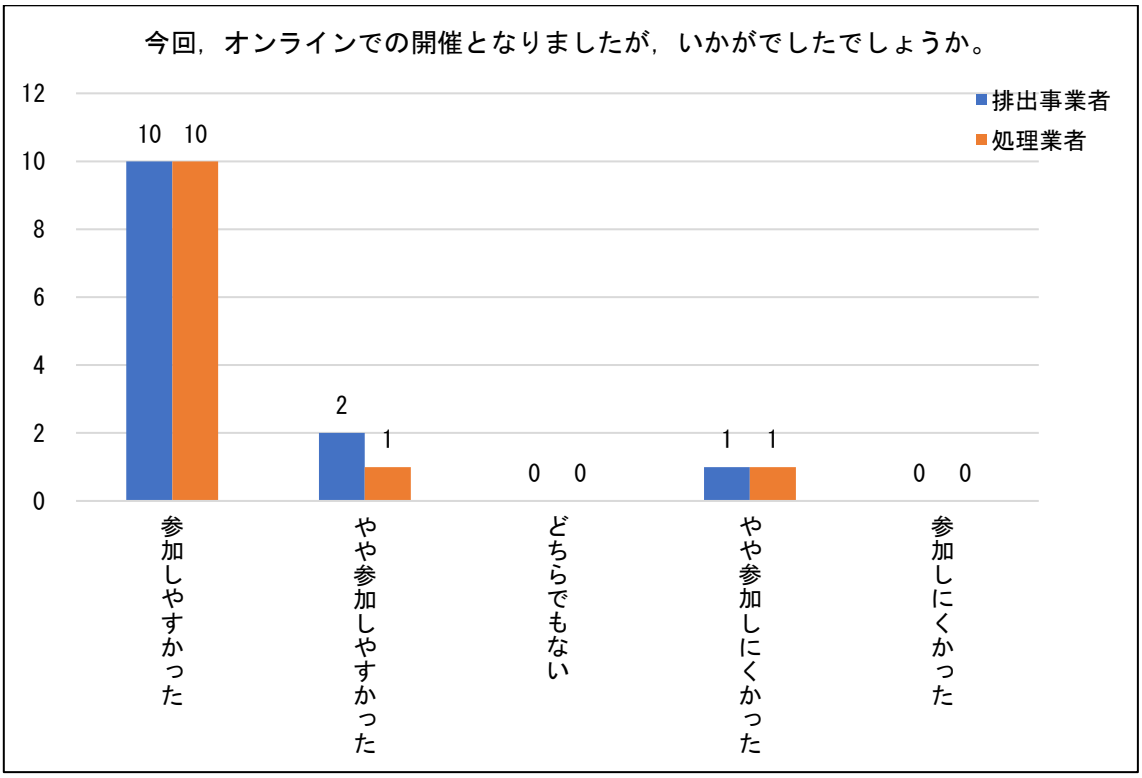

基調講演の満足度を教えてください。
8
6
4
2
0
排出事業者
処理業者
5 5
6 4
2 3
0 0
0 0
非常に満足
満足
普通
不満
非常に不満


事例①の満足度を教えてください。
6
4
2
0
排出事業者
処理業者
5 5
4 4
4 3
0 0
0 0
非常に満足
満足
普通
不満
非常に不満


事例②の満足度を教えてください。
排出事業者
処理業者
8
6
4
2
0
4 4
7 7
2 1
0 0
0 0
非常に満足
満足
普通
不満
非常に不満


ワークショップの満足度を教えてください。
排出事業者
処理業者
8
6
4
2
0
2 5
7 4
4 3
0 0
0 0
非常に満足
満足
普通
不満
非常に不満


本セミナー/ワークショップへの参加を通じて，
参考になった点や自社の課題解決につながる気づき等はありましたか。
業務に活かせる気付きがあり，今後具体的に取り組んでいく予定である
業務に活かせる気付きがあった
業務に活かせるかどうかこれから検討する
業務にどう活かすかはまだ見えていない
業務に活かせる気付きはなかった
3
2
2
5
3
5
3
1
0
1
処理業者
排出事業者
0
2
4
6


今回，オンラインでの開催となりましたが，いかがでしたでしょうか。
排出事業者
処理業者
12
10
8
6
4
2
0
10 10
2 1
0 0
1 1
0 0
参加しやすかった
やや参加しやすかった
どちらでもない
やや参加しにくかった
参加しにくかった